

改 善 計 画 書

1 目 的

本計画書は、平成26年度高松市循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書において、目標を達成できなかった項目について、その要因を分析するとともに、今後の目標の達成に向けた方策等に係る計画を作成するものです。

2 目標を達成できなかった項目

(1) 再生利用量

直接資源化量は、目標値 45 t に対し、実績値 71 t と増加する結果となり、目標を達成することができなかった。また、総資源化量は、目標値 42,045 t（総排出量比 25.7%）に対し、実績値 31,650 t（総排出量比 21.0%）に留まり、目標を達成することができなかった。

(2) 減量化量

目標値 103,890 t（総排出量比 63.6%）に対し、実績値 104,774 t（総排出量比 69.7%）に留まり、目標を達成することができなかった。

3 目標を達成できなかった要因

本市では、循環型社会形成推進地域計画に基づき、一般廃棄物の発生抑制、再生利用等を推進するため、市民、事業者及び行政が適切な分担の下で、それぞれの役割を積極的に果たし、協働による廃棄物の資源化に取り組んできました。また、中間処理過程においても、資源物の選別や、破碎ごみの金属類の資源化に努めているところです。

しかしながら、再生利用量と減量化量については、高松市循環型社会形成推進地域計画に掲げる目標を達成できませんでした。その要因として、市が回収する資源物のうち、約6割を占める紙類が、平成18年度と比較して、約24%減少するなど紙類の回収量が大きく減少したことが挙げられます。これは、新聞紙・雑誌等の発行部数の減少に加え、新聞店等の資源自主回収の推進や民間資源回収ステーションの設置が増えており、市が量を把握できないルートでの資源化が行われていることなどが考えられます。

4 目標の達成に向けた施策等

循環型社会形成推進地域計画に掲げる目標を達成するため、生ごみの資源化の推進や事業系ごみの減量・資源化等の取組みを更に強化して実施するとともに、中間処理においては、対象物の減量・資源化の強化を図り、適正で効率的な運転管理に努める。

また、更なる一般廃棄物の資源化を推進するため、次の新たな施策を実施する。

ア 雑がみ回収袋による紙類の資源化の促進

イ 資源ごみの店頭回収量の実態調査による再生利用量の把握

ウ 使用済小型家電等のリサイクルシステムの構築

エ 減量ハンドブック等を活用したごみの資源化に関する啓発事業の強化

オ 熔融スラグ等の利用促進（資源化）

(都道府県知事の所見)

目標値を達成できなかった各指標については、改善計画書で定める改善方策を確実に実施し、第2次地域計画において目標値を達成できるよう努力されたい。